

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和4年度第3回）議事要旨

- 1 日 時 令和5年3月23日（木）13：30～14：30
- 2 開催方法 オンライン
※京都会場を設置
（京都会場）リーガロイヤルホテル京都2階 朱雀①
- 3 出席者 小山、田中、手代木、板東、藤沢、小谷、梅田、井上、河合、寶學の各委員
欠席者 なし
出席監事 西村監事、春本監事
陪席者 松山企画・教育部長、山本管理部長、蜂谷企画総務課長
- 4 配付資料
 - 資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 ・・・p. 3
学長選考・監察会議（令和4年度第2回）議事
要旨（案）
 - 資料2 学長の業務執行状況の確認について（令和5 ・・・p. 6
年6月実施分）（案）
 - 参考資料2－1 学長の業務執行状況の確認方法 ・・・p. 7
 - 参考資料2－2 学長及び監事に対するヒアリングの実施時期 ・・・p. 9
及び手順
 - 資料3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学 ・・・p. 10
長選考・監察会議規程等の一部改正について
 - 参考資料3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学事 ・・・p. 14
務局組織編制案
 - 資料4 学長選考・監察会議における情報の公開・発信 ・・・p. 15
について
 - 参考資料4 学長候補者の公表について ・・・p. 16
 - 資料5 学長選考・監察会議の諸課題への対応につい ・・・p. 17
て
 - 参考資料5 令和4年度以降の学長選考・監察会議の検討 ・・・p. 31
課題（これまでの議論を踏まえた論点整理）
（概要）

5 議 事

(1) 学長選考・監察会議（令和4年度第2回）議事要旨の確認について

小山議長から、資料1の学長選考・監察会議（令和4年度第2回）の議事要旨（案）について、委員による確認が済んでいることの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(2) 学長の業務執行状況の確認について（令和5年6月実施分）

小山議長から、資料2に基づき、令和5年6月に実施する学長の業務執行状況の確認の方法について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(3) 事務局組織再編による規程等の改正について

小山議長から、資料3に基づき、事務局の部を3部制から2部制に再編することに伴う規程等の改正について説明があった。

学外委員から、3部制を2部制にすることはスピードが上がって良いが、部内で各課が連携し協働できる体制となっている必要がある、そのように部のトップがマネジメントできる権限は規定されているのか質問があり、事務局から、今回の再編は、各課が連携できるよう、事前に事務局長と各部長が検討し、調整を行ったもので、来年度以降、円滑に運用できるように体制を整えていくとの回答があった。

審議の結果、規程等の改正について、原案のとおり承認した。

(4) 学長選考・監察会議における情報の公開・発信について

小山議長から、資料4に基づき、学長選考・監察会議における情報の公開・発信を、より分かりやすく効果的なものとなるよう見直すことについて、前回の会議後の意見照会で委員から提出された意見の紹介及びその対応方針の説明があり、審議の結果、対応方針について、原案のとおり承認した。

(5) 学長選考・監察会議の諸課題への対応について

小山議長から、資料5に基づき、令和2年度に実施した学長候補者の選考や、これまでの会議運営を通じて明らかになった諸課題について、現委員の任期が令和5年3月末で終了することに伴い、次期委員への申し送りの意味を込めて、各課題の背景、問題点及び対応方針に関するこれまでの議論の確認並びに課題への対応として令和5年度に実施することの確認を行うと説明があった後、意見交換を行った。

特に、課題のひとつである「学長候補者を学外者も含めてどう獲得するか」は、重要かつ本質的な課題のため、今後の議論の手がかりを増やすため、更なる意見が委員に対して求められた。

これに対し、学外委員から、学外者から学長候補者を得る場合、学外者にとって、奈良先端大の目指す将来像について学内の合意が形成され、かつ、周知されていないと、学長候補者として目指す法人経営の方針が示しづらく、難易度が高いため、まずは大学の在りたい姿・在るべき姿をどのように形成していくのか、学長選考・監察会議のみならず、経営協議会等も含めて、議論を続けていく必要があるとの意見があった。

また、他の学外委員からは、前の意見に賛同し、大学がどう在りたいのか、どうなりたいのかについて、学内の合意が形成された上で議論しなくては、学長選考・監察会議委員として、学外者を学長候補者に選ぶ基準となるものがなく、選考が難しいとの意見があった。併せて、学外者が学長となった場合、1人だとマネジメントが上手くいかない可能性もあるため、チームとして大学に入ってもらい、チームも含めて権限を与えるということまで想定しないと、学外者を学長として迎えることは難しいのではないかと、との意見も述べられた。

さらに、他の学外委員からは、学外者から学長候補者を得ることについて、その必要性を、現状の問題点を整理した上での奈良先端大の将来在るべき姿を踏まえ、まずは学内の教員で議論し、意見をまとめておかなければ、大きな問題を残すのではないかと、との意見があった。

一方、他の学外委員からは、大学の目指す将来像が設定されていることは重要であるため、その大きな方向性は示した上で、学長選考・監察会議としては、最初から学外者を排除して学内推薦に期待するのではなく、例えば奈良先端大を経験した後、現在は他の大学や研究機関で活躍している研究者も含めて、学外に良い人材はいないのか議論しながら、学長候補者を検討する必要があるのではないかと、との意見があった。

そうした学外委員の意見を踏まえ、学内委員からは、学外者にとって本学の目指す将来像を描くことは簡単なことではないので、学外に学長候補者を求めていくのであれば、学外者と学内者が意見をすり合わせながら将来像を検討していく必要があるが、現状ではその作業が十分にできておらず、本学が社会に求められている将来像は、学内者であっても完全に理解できているわけではないため、多様な見識を持つ学外者も含め、本学の将来像についての開かれた議論を行う場を作ることが重要であるとの意見があった。併せて、この課題に対するこれまでの議論を、次期委員へしっかりと引き継いでいく必要があるとの意見も述べられた。

他の学内委員からは、現行の学長候補者選考の方法で、大学の将来像に対する学内者の意向はかなり反映できていると考えるが、本学は公的機関であるため、学外の方々の、本学に対する大学作りの期待を、大学の目指す将来像に反映させる必要があるのではないかと、との意見があった。

また、最後に学外委員から、奈良先端大が、学外者にとって学長を務めたいと思えるような魅力のある大学であることを知ってもらうため、奈良先端大の取組み、強み、学長として求める人物像等が、学外者からも理解してもらえるよう広報活動を強化していくことが肝要であるとの意見があった。

意見交換の結果、諸課題及びその対応方針については、今回の意見を含めて、次期委員に引き継ぐこととなった。

以上